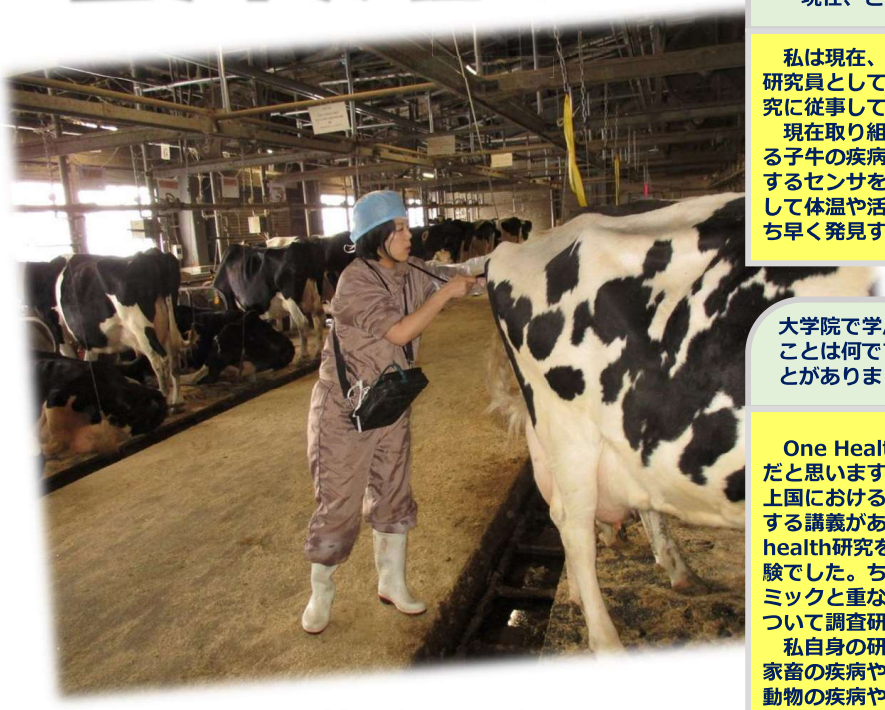
ふるかわ　えり

古川瑛理さん

WISE 1 期生　獣医学院　繁殖学教室出身



現在、どのような研究やお仕事をされていますか？

私は現在、農業・食品産業技術総合研究機構でポスドク研究員として勤務しており、精密家畜管理という分野の研究に従事しています。

現在取り組んでいる研究のテーマは、「尾部センサによる子牛の疾病検知」で、子牛の尾部に温度と加速度を測定するセンサを取り付け、常時データをモニタリング・解析して体温や活動の異常を検知することで、子牛の疾病をいち早く発見することを目的とした研究をしています。

大学院で学んだOne Healthについて、重要だと感じたことは何ですか？また、現在の研究に活用できていることがありましたら教えて下さい。

One Healthは多岐にわたる獣医学の分野に関わる理念だと思います。卓越プログラムでは、ワクチン開発や、途上国における環境汚染や人獣共通感染症コントロールに関する講義があり、自分の専門分野とは異なる分野のOne health研究を知ることができたのは、たいへん有意義な経験でした。ちょうど新型コロナウイルス感染症のパンデミックと重なった時期でもあり、途上国における感染症について調査研究・指導の重要性を感じました。

私自身の研究においては、精密家畜管理の技術を用いて家畜の疾病や分娩などを高精度に発見することによって、動物の疾病や分娩事故を減らし、アニマルウェルフェアを向上する飼育技術の開発に貢献したいと考えています。

卓越プログラムの活動で、一番印象に残っていることや面白かったことは何ですか？

私にとって卓越プログラムの中で最も良い経験になったのは、海外インターンシップです。約４週間カンボジアに滞在し、ロンドン大学と現地研究機関による研究チームとともに、カンボジアの小規模農家における豚インフルエンザ伝播経路の疫学調査に同行しました。

首都プノンペンから車で３時間の農村地域では、民家の裏庭で牛・豚・鶏がごちゃごちゃと飼育されており、衛生管理や抗生物質の使い方は日本のそれとは全く違い、強烈に印象に残りました。これまでに授業などで途上国の畜産について学ぶ機会はありましたが、百聞は一見に如かずという事で、実際に農家を訪問して飼育管理の問題点について考えさせられました。

さらに、受け入れ先の肥田野先生から、疫学解析のアプローチによる因果推論・サンプルサイズ設計などの実際的な解析方法を学びました。

私は獣医臨床繁殖学を専攻していたため、疫学という異分野の研究者に教えを乞うことで新たな知識を得ることができたのは、大きな収穫でした。

後輩たちへのアドバイスをお願いします。

卓越プログラムは、海外インターンシップやStudent Free Design Activitiesなど、自由度の高いコンテンツが多く用意されていると思います。自分のやりたい事ができるチャンスが多いので、色々作戦を考えて、うまく活用されるといいと思います。

古川さん、お忙しいところ、ご寄稿ありがとうございました！
これからのさらなるご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

海外インターンシップ中に、カンボジアの王立農業大学も訪問しました